

想う

雨和七瀬

たからものをそつとしまうのは
これまたきれいな宝石箱の中
貫つたものも拾つたものも、平等に
埃をかぶらないように
傷をつけてしまわないように

ある日ぼろりと零したようで
蓋を開ければ消えていて
そこには寄り添う二つ分の窪みがあつて
どこで落としたかも分からずに
途方に暮れども針は進む

今一度、宝石箱を覗いても
他の在り様は分からない
たからもの達がぶつかつて
少しだけ傷がついていた
治せるかも分からない亀裂

鍵の開け方を教えなければ？
いいえ、彼らも知るべきだった
宝石箱を託すべきではなかった？
いいえ、誰かに託すべきだった
思考を巡らせど、失くしたものは帰ってこない

綺麗に磨かれたものがずっと綺麗と思うな
昨日まであつたものが明日もあると思うな
たからものだって互いを傷つける
だから、泥だらけ傷だらけになつても
たからものを握りしめる手を離すな

ああ、もう語りかけることすらままならない
いつか繋いだ細い細い糸を辿つて
また笑い合える日々を夢見て
たつた数度、されども数度
会えるはずが無かつたのに出会えた君たちを
君たちと語り合い、交流した日々を
ずっと大切だと想う